

特別講演会

「情報社会から 融合社会へ」

— データ駆動のIT/ICTイノベーションと
オープン・ソーシャル・ビッグデータ連携基盤 —

日時 平成27年5月21日(木) 14:40~16:10

場所 豊橋技術科学大学 講義棟A2-101

概要

工業社会は、物質的なモノの豊かさを充足する「生活のための情報」が流通する社会でした。それに続く情報社会は、精神的、心の豊かさを享受する「楽しみのための情報」が流通していました。そして今、高度な情報と通信の技術によって、あらゆる情報機器やセンサがネットワークへ接続され、情報がデジタル化されて流通し、いつでも、誰もが、どこからでもアクセスすることが可能となっています。この結果、情報空間(Cyber space)と実世界(Physical world)が連携、あるいは統合する「サイバー・フィジカル融合社会(Cyber-Physical Integrated Society)」が形成されようとしています。

この融合社会は、「社会問題克服と人間能力拡大のための情報」が流通する社会でしょう。例えば、社会問題として、急速な人口減少と大都市への集中により、市町村の半数の自治体が、公的サービスの提供や維持が困難になるという問題があります。これには、観光や商取引など地域経済活性化、地域医療・健康、高齢者介護・見守り、地震・津波・台風・集中豪雨・地滑りなど自然災害への対応という様々な形の社会的イノベーションが求められます。

これまで、社会問題克服には、部分的でしかも不完全なデータをもとに、主観的な政策決定や意思決定をおこなってきました。しかし、融合社会では、情報機器や多様なセンサーで計測される多種多量なビッグデータを分析して、「科学的根拠データに基づいて合理的な政策決定」を行う「データ中心政策科学(Data-centric Decision Making)」が有効となります。また、融合社会の経済発展と雇用機会は、「知識サービス産業、知的情報産業」へとシフトしていくでしょう。

そこで、地域社会と大学、自治体、中小・ベンチャー企業等との協働によって、公的統計データ、自治体オープンデータ、Web/SNS空間やセンサーネットから得られるソーシャル・ビッグデータを活用し、地域の特色を生かした公共性の高いデータ駆動のIT/ICTシステム・サービスの研究実用化が不可欠となります。さらに、それら研究実用化を通して、データ駆動システム・サービス研究開発人材育成も併せて行っていく必要があります。

本講演は、地(知)の拠点となる大学と自治体、企業の協働による「知識サービス産業社会化に向けたリアルタイムデータ駆動型IT/ICTイノベーション」と、それに必要となる「オープン・ソーシャル・ビッグデータ連携基盤(Open Social Big Data Federation)」について議論したいと思います。



曽根原 登 教授

国立情報学研究所

情報社会相関研究系 研究主幹

総合研究大学院大学
複合科学研究科

- ROIS 情報・システム研究機構 新領域融合センター「社会コミュニケーション」/データ中心科学リサーチコモンズ 「人間・社会データ基盤」研究代表
- NICT 情報通信研究機構「ソーシャル・ビッグデータ駆動の観光・防災政策決定支援基盤研究開発」研究代表
- 昭和53年 日本電信電話公社(現、NTT) 横須賀電気通信研究所 画像通信研究部入社 ファクシミリ研究室
- 昭和61年 国際電気通信基礎技術研究所/ATR視聴覚機構研究所 認知機構研究室 主任研究員
- 平成4年 NTT ヒューマンインタフェース研究所 マルチメディア研究部 主幹研究員、平成11年 NTT サイバースペース研究所 メディア生成部長、平成12年~平成16年 NTT サイバーソリューション研究所 コンテンツ流通プロジェクト部長
- 平成16年~現在 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 研究主幹・教授/総合研究大学院大学 複合科学研究科 情報学専攻 教授

聴講自由

本件お問い合わせ先

国立大学法人豊橋技術科学大学
研究推進アドミニストレーションセンター

電話 0532-44-1561(内5342)
FAX 0532-81-5172
Email office@rac.tut.ac.jp